第二中学校だより

正しく　強く　美しく

青梅市立第二中学校
令和６年２月１９日

日頃、保護者や地域の皆様には、第二中学校の教育活動に対しまして、並々ならぬご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。学校評価シートによる学校関係者評価（学校側の自己評価結果に対する学校運営連絡協議会委員の方々による評価）は、次のようになりました。この評価を生かして、更なる教育活動の改善・充実を図って参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

なお、この学校だより（学校評価シート）は参考資料とともに、近く学校ホームページにも掲載する予定です。

令和５年度　学校評価シート（第二中学校）

・学校経営方針の重点　１　学習指導の充実　２　生活・進路指導の充実　３　情操教育の充実　４　校内・地域との連携

４段階評価　Ａ：目標達成、Ｂ：ある程度達成、Ｃ：もう少し、Ｄ：できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
確かな学力	基礎・基本的な学力の定着と向上	授業の充実と指導方法の工夫・改善	1 授業の最初に学習目標を明確に示すと共に、振り返りやまとめをしっかりと行う。	A	学習目標の提示はすべての教科で実践することができている。振り返りやまとめも意識して取り組むことができている。	目標に沿って理解できたかどうかの振り返りやまとめを行うことにより、授業内で学習の定着度を高めていく。	A	・コロナ明けの大変な１年であったが、目標に向かい、振り返り、まとめ等意識して取り組めている。引き続きて定着度を高め、学力向上につなげてほしい。 ・授業参観より、とっても落ち着いている。生徒の学力も様々だが、引き続き対応をお願いする。 ・生徒一人一人が理解できたが重要である。（理解できる言葉や内容）	学校として落ち着いて生徒が授業に取り組めている今を学力向上の絶好の機会と捉え、目標の提示、振り返り、まとめをしっかりと行い、授業の質を高めていく。
			2 既習内容・重要事項の定着を図る小テストやプリントの充実を図る。	B	昨年度、一昨年度はＣがなく、また昨年度はＡが７割超であったが、今年度は自己評価が下がってしまった。	既習内容・重要事項の定着に小テストやプリントの充実・活用は欠かせない。教科の特性もあるが、より一層の充実を図っていく。	B	・小テスト、プリントと工夫して取り組んでいる。生徒の自主性を育む指導もお願いする。 ・小テストやプリントの効果測定が見えるとよい。 ・ステップアップの時間にもプリントを１枚やってから自主学習に入っていくとよいのではないか。 ・体調不良や出席停止、忌引き等やむなく授業を欠席した生徒への対応が教職員によって異なることが気になる。	ドリルとしてのプリントや重要事項のまとめ学習としてのプリント、スモールステップとしての小テストなど目的に応じてプリントを工夫し、活用していく。小テストで効果を確認していく。
			3 GIGA スクール構想に則り、ICT（タブレット、電子黒板、ｅライブラリなど）の積極的な活用を図る。	B	一昨年度は A が 35%、昨年度は 48%、今年度は過半数の教員が、ICT を積極的に活用することができるようになり、それに伴い、C も 31%、19%、7%と減ってきている。	積み重ねを大事にして、更に有効な活用方法を全教科、領域で模索していく。他校との連携も視野に入れて取り組んでいく。	B	・過半数の教員の活用はよい。これからも積極的に活用してほしい。 ・ICT 化が全てに必要とは思わないが、学習環境を整備して、更なる効果的な取り組みを検討していくとよいと思う ・A 評価が妥当であると思う。昨年度よりもよくなってきている。 ・高等学校（都立）では一人１台のタブレットを購入して活用。その準備期間としても活用してほしい。	タブレットの活用が進んできている。ICT 機器を活用すること自体が目的ではなく、学力向上を図るために、有効に活用するという視点で、今後も積極的な活用に取り組んでいく。
規範意識と社会性	人権尊重教育の推進と丁寧な進路指導	生徒指導のあり方を積極的に丁寧な進路指導	1 学校いじめ防止基本方針に則り、年４回のいじめアンケートを活用して、いじめの未然防止・早期解決を図る。	A	予定通りにアンケートを実施した他、毎週のいじめ対策委員会で情報を共有して、いじめ防止・早期解決に取り組んでいる。	本来、全員がＡ評価になるべき項目であり、アンケートの活用はもちろんのこと、日頃からいじめかどうかにこだわらず、指導するべきこと、支援するべきことに取り組んでいく。	A	・いじめのない二中の実現に向け、更に取り組んでほしい。 ・アンケートだけでなく、生徒の様子も丁寧に見てもらえていると感じる。いじめの問題だけでなく、子供のつぶやきにも早急に対応してもらっており、よい取り組みとなっている。 ・学校内（登校日）でうまく付き合えない友達と接触を避けることは難しいが、教員があえてプライベート時間に会うのはトラブル回避にならない。	いじめに原因があったとしても、それはいじめをしていい理由にはならない。いじめは絶対に許されないことである視点を常にもち、同時に改善策のように、いじめかどうかにこだわることなく指導、支援に取り組んでいく。
			2 学校生活のあらゆる場面で、挨拶・言葉づかい・態度など社会性を意識した指導を行う。	B	常に社会性を意識して指導を行ってきたが、言葉遣いや TPO に応じた行動などでその成果が十分に出ていない生徒もいる。	生徒が将来、社会に出たときに、よりよく生活していくことができるように、今後も学校生活のあらゆる場面で当たり前のことが当たり前にできるように取り組んでいく。	B	・「挨拶と言えば二中」そんな校風になればよい。引き続き指導をお願いする。 ・生徒によって、個人の課題はあるかもしれないが、全体的には概ね目標を達成していると感じる。来校すると生徒から気持ちのよい挨拶を受けることが多く、気持ちがとてもよい。 ・同年代の子と同じ言葉遣いで年上と話す生徒が多い。生徒に対する教員の言葉遣いも気になる。	集団としては成長の後が見られる。生徒一人一人に目を向けるとまだ伸びしろもの多い生徒もおり、社会に出て戸惑うことの無いようにしっかりと指導していく。また、教員自らも言葉遣いには気を付けていく。
			3 丁寧な進路指導（進学、就職等）と発達段階に従った進路学習（職場体験、職業学習等）を行う。	A	職業調べや職場体験、上級学校の先生の話を聞く会など、発達段階に応じた指導を予定通り行い、進路に向けての意識づけを行うことができた。進路指導については具体的かつ丁寧に取り組んでいるところである。	今後も生徒に将来の希望をもたせ、意欲的によりよい進路選択ができるよう発達段階に沿った進路学習を進めていく。３年生においては夢や希望を大切にしながらも現実を直視した進路指導を丁寧に行っていく。	A	・生徒の希望、夢の実現へ向け、指導を丁寧に進めてほしい。 ・とても丁寧な進路指導をしていると感じる。最近の子供たちの様子を見ていると、自分の目標を今より高く設定して頑張ることが少し足りないと感じており、引き続き生徒一人一人に合った指導をお願いしたい。 ・保護者への説明等はとてもよく感謝する。生徒に対しては担任によってばらつきがあると少し感じる。	今後も職場体験をはじめとして、将来を展望させるキャリア教育としての進路学習に取り組んでいく。目の前の進路指導にも、生徒に寄り添って、適切な目標の設定ができるように個別に丁寧に取り組んでいく。

豊かな心と体の健康	心の教育の推進と体の健康の増進	豊かな心と体の健康を育むための自主的・自発的活動の推進	1 不登校生徒に対し、校内委員会で情報交換を密にし、学校・学年体制で保護者・関係諸機関とも連携して粘り強く支援を行う。	B	本校の大きな課題として、新たに取り入れた項目である。関係諸機関と連携しながら組織的に取り組み、行事や面談などには参加できた生徒や少しずつ出席に数が増えてきた生徒などその成果が現れてきた生徒も出てきた。	２週に１回の健康相談部会や週１回の運営委員会で情報を共有し、単に出席を促す指導ではなく、なぜ学校に来られないのかに目を向け、保護者・関係諸機関と連携しながら、一人一人に合ったよりよい解決策を考え支援していく。	B	・保護者、関係者との連携は大変なことと思うが、一人一人にあった改善策をお願いしたい。 ・近年、各学年において不登校生徒が増えている状況がある。この問題は学校の対応だけでは難しいので、家庭を巻き込みながら進めてほしい。また、適応指導教室についても周知し、生徒に合った支援につなげてほしい。 ・今後も支援をしっかりと行ってほしい。どうして不登校になったのかの根本的な原因の解決についても改善策をあげてほしい。	改善策にもあるように、なぜ学校に来られないかについてにも目を向けながら、保護者と連携して一人一人にあった対応策、解決策を考え、登校支援室や教育相談所、ふれあい学級（適応指導教室）など外部機関も活用して組織的に支援していく。
			2 SDGs の意識を高め、省エネ、差別・偏見の防止など、身近にできることの実践に取り組む。	B	学年によってはSDGs について学んだ後、個人個人に関連させた目標をもたせ、実践への意識を高めることができた。	各学年の取り組みをもっと学校全体で共有して、効果的な工夫や取り組みは学校全体に広げていく。	B	・今の社会で重要な課題である。身近なことから行動し達成感が感じられる取り組みをお願いする。 ・学校全体として目標を設定して外部にアピールできるような取り組みがあるとよい ・学校の様々な取り組みから SDGs の意識をもつことができる様子を感じる。大変大切な視点であり引き続き実践をお願いする ・何でも新しいものを買ってもらえると思っている子供も多い。これからも続けて取り組んでほしい	改善策の他、生徒会や各専門委員会など生徒の力を活用して、学校として行動目標を定め、実行するなど、より積極的に、省エネ、差別・偏見の防止など、身近にできることに取り組んでいく。
			3 行事（運動会等）や委員会・係活動、部活動を通して、健全育成を推進する。	B	コロナが 5 類になったことを受け、各活動も活発になり、生徒の成長に大きく貢献することができている。自己評価にＣやＤはなく、Ａは 68%であり、ほぼＡに近いＢである。	今後も行事や委員会・係活動、部活動などを通して、生徒の可能性やよさを引き出し、健全育成を推進していく。	B	・Ａに近いＢ、生徒のよさ、可能性を引き出して来年はＡになるように。 ・コロナが５類になり、充実した日々が過ごせよかったと思う。 ・合唱コンクールの運営など生徒が主体的に行事に参加していた。部活動でも一生懸命取り組んでいる様子が見られ、生徒の成長を感じる機会があった。今後も様々な活動で支えてほしい ・行事や活動の目的や意味を明確に子供達に理解させてほしい。	ただ単にコロナ禍前に戻すのではなく、活動の意義などを踏まえ、コロナ禍での活動の経験も活用しながら、生徒の成長に貢献できるような行事、委員会活動、部活動などを推進していく。
校内・地域との連携	学級・学年経営の充実と保護者・地域との連携	保護者・地域との連携の強化	1 学級間、学年間で情報を共有するとともに、ホームページ、学校・学年通信などで情報を発信し、開かれた学校づくりに努める。	B	特に学年通信は各学年の生徒の様子や行事の取り組みなどについて細かくタイムリーに発信することができている。週１回の運営委員会を活用して、組織的に教育活動に当たることができている。	近年の状況を鑑みて、個人上の問題などもあり、ホームページの扱いは難しくなりつつある。保護者への情報発信については、メール配信の活用も進めているところである。	B	・情報発信が難しくなっている時代、メール発信やアプリの活用で校内、地域の連携を深めてほしい。 ・学校だより、学年通信などから学校での生徒の様子を垣間見ることができる。個人情報の取り扱いは年々難しくなっているが、更なる工夫をして対応をお願いする。 ・ＨＰも最新の情報が載っていてわかりやすくてよい。学年通信も読みごたえがあってよい。 ・発信内容をどう浸透させるかがキーだと思う。	今後も個人情報の扱いには細心の注意を払いながら、各種たよりなどで情報を発信するとともに、ホームページやメールもその特性を生かして効果的かつ安全に活用していく。
			2 保護者からの連絡や相談に丁寧に対応する。	A	保護者からの連絡や相談に対して、常に丁寧な対応を心がけてきている。	学校教育における家庭との連携において基本かつ重要な項目であり、今後も丁寧な対応を心がけていく。	A	・丁寧な対応が行われている様子である。引き続きよろしくお願いする ・学校に連絡するととても丁寧に対応してもらえている。生活の状況も理解して対応してもらい、学校と家庭の連携が取れている。 ・丁寧な対応だが、連絡後の対応がない教員もいる。	保護者からの連絡や相談に丁寧に対応することは、家庭と学校の連携の基本であり、事後の連絡も含め、これからもしっかりと取り組んでいく。
			3 コロナ禍が収まった後、地域活動への生徒の積極的な参加を促す。	C	A,B 合計で 7 割に届かず、全項目中最も自己評価が低かった。いつ、どのような地域活動があるのかが十分にわかっておらず、それも生徒へ働きかけが十分にできなかったことにつながった。	部活動や学校行事をはじめ学校教育活動との兼ね合いもあるが、生徒の地域活動への参加を今後も促していく。	C	・コロナ禍が長くなった。学校行事との兼ね合いもあり、難しい面もあったと思うが、来年は改善して、まずＢを目指してほしい。 ・地域活動について保護者も具体的に知らない状況ではないかと感じる。まずは具体的な地域活動について示してもらい、生徒が参加しやすい活動になるとよい。 ・コロナの影響は残っているが啓蒙活動として評価できる。 ・大人の参加が減り、親も参加しないから子供も参加しない。PTA からも地域情報を発信していきたい	例えば、多摩川百万人清掃では、集合場所や時間などの情報を各自治会から収集して生徒へ知らせるなど、生徒が地域の一員として地域活動に積極的に参加できるよう学校として支援していく。
その他重点	組織的な学校運営	チームワークを大切にする組織	1 主幹・主任・担当を中心に計画的かつ組織的に教育活動に取り組む。	B	運営委員会を軸に組織的に学年、学校として教育活動に取り組むことができている。	今後も担当者任せにせず、組織的な取り組みで、個人の負担を軽減しながらも高い成果を目指していく。	B	・組織的な運営で教員の負担を軽減してほしい。運営委員会も大いに活用して成果を出してほしい。 ・教員の連携が図られ、生徒たちから担任だけでなく多くの教員の名前が出る。引き続きチームワークをもって対応してもらいたい。 ・クラスによって、連絡が遅れ、生徒が戸惑うことがあると聞いた。	教員一人一人の経験やもっている特性を生かして、今後も学校として、組織的に教育活動に取り組んでいく。
	服務規律の厳守	体罰防止の徹底	2 教育公務員としての自覚をもち、冷静な対応と粘り強い指導を行い、体罰・暴言の防止を徹底する。	A	服務事故防止研修やミニ研修などを通して体罰・暴言の防止に対する意識を高め、防止の徹底に努めてきている。	本来、自己評価で全員がＡにならなければならない項目であり、全員が自己評価Ａとなるように、より一層意識を高くもち、体罰・暴言の防止に努めていく。	A	・体罰、暴言を防止し、全員がＡ評価となるようにしてほしい。 ・昨今ニュース等で教員の不祥事が相次いでいる。二中ではないと思うが引き続き自覚と責任のある対応をお願いする。 ・保護者が視界に入っている時といない時での生徒に対する言葉遣いに違いがあり、暴言ともいえる対応を目にしたことがある	次年度こそ、教員全員が自己評価Ａとなるよう、改めて一人一人が教育公務員としての自覚をしっかりと高くもち、常に冷静な対応を行い、体罰・暴言の防止を徹底していく。